

地域とともに歩む学校づくり

学校は地域に開かれるとともに、保護者や地域住民に信頼される学校運営をする必要があります。本市においては、平成16年度からすべての市立学校園で学校評議員制度を導入し、学校外の評議員が学校運営に関し意見を述べ、校長は評議員の意見を参考にしながら学校運営を実施しております。

また、平成19年6月に学校教育法、同年10月に学校教育法施行規則の改正により、学校評価に関しては、自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が新たに設けられました。このことを受けて、各学校園では、教育活動や学校運営の状況について評価を行い、ホームページなどを通じて、評価結果の公表をするとともに、明らかとなった課題について、その改善を図っております。

ここに、平成24年度の各学校園における「学校評議員の活用」や「学校評価の実施」取組の様子を「地域とともに歩む学校づくり」としてまとめました。各学校園では、この報告書を参考にするとともに、学校・家庭・地域が連携・協力しながら、よりよい学校運営の改善に向けて取組を実施し、開かれた学校、地域から信頼される学校となるようお願いします。

平成25年3月
奈良市教育委員会

- 平成24年度は415名に学校評議員として奈良市の学校運営に参画していただきました。
〔奈良市立学校園数：幼稚園38園、小学校47校、中学校22校、高等学校1校〕

評議員の置かれている学校実数

幼稚園38園、小学校45校、中学校20校、小中学校2校、高等学校1校

* アンケート集計では、小中学校は中学校、高等学校とあわせて集計しています。

内容

1、学校評議員制度の活用

【学校評議員 役職の内訳】	2
【設置されている学校評議員数】	2
【学校評議員の再任の割合】	3
【校園長が学校評議員に求めた意見例】 〔意見を求めた学校園数の割合〕	3
【学校評議員からの意見を教職員全体で共有する仕組み】	4
【学校評議員の方々からのご意見が教育活動に活かされた例】	4

2、学校評価の実施

【学校評価を進める仕組みの有無】	6
【評価結果に基づく改善方策の検討を行う体制】	6
【外部アンケート（児童生徒・保護者等を対象としたアンケート）の実施割合】	7
【各学校園が設定した重点的な目標（評価項目）】	7
【学校関係者評価の実施について】	8

3、学校評価の成果と課題

【学校評価を行ったことで得られた成果】	9
【学校評価をすすめる上での課題】	10
【学校評価結果から指摘できる、学校が抱かえる学校経営上の課題】	11
【学校評価結果から指摘できる、学校が抱かえる学校経営上の課題の具体的解決策の例】	12

4、学校評価と学校ビジョン

【学校評価結果をうけて、改善しようとしている学校ビジョンの内容】	13
--	----

1、学校評議員制度の活用

【学校評議員 役職の内訳】

役職の内訳	本年度		備考
	人数	割合	
P T A関係	1 1 8 人	2 8 %	それぞれの項目は元経験者も含む。
民生関係	9 4 人	2 3 %	主任児童委員、児童委員
自治会関係	6 3 人	1 5 %	
教職経験者	3 1 人	7 %	
各種協議会	2 2 人	5 %	人権教育協議会、安全推進協議会など
学校支援	1 5 人	4 %	地域教育協議会、地域ボランティア
少年指導協議会関係	1 9 人	5 %	
地域活動関係	1 1 人	3 %	
社会福祉協議会関係	1 0 人	2 %	
公民館・施設長関係	9 人	2 %	
万年青年	3 人	1 %	
一般	2 0 人	5 %	

【設置されている学校評議員数】

学校評議員数	校種別の内訳（校園数）					合計
	幼稚園	小学校	中学校	小中学校	高等学校	
5 人	3 園	1 2 校	8 校		1 校	2 4 校園
4 人	1 3 園	2 5 校	1 0 校	2 校		5 0 校園
3 人	2 1 園	8 校	2 校			3 1 校園
2 人	1 園					1 校園
合計(校園数)	3 8 園	4 5 校	2 0 校	2 校	1 校	1 0 6 校園
総人数	1 3 2 名	1 8 4 名	8 6 名	8 名	5 名	4 1 5 名

【学校評議員の再任の割合】

再任割合	幼稚園	小学校	中学校	小中学校	高等学校	合計
人数（人）	26人	38人	30人	3人	4人	101人
割合（%）	20%	21%	35%	38%	80%	24%

【校園長が学校評議員に求めた意見例】 【意見を求めた学校園数の割合】

「地域の連携・協力に関すること」

〔幼:92% 小:93% 中高:100% 全体:94%〕

- ・地域で決める学校予算・放課後子ども教室等
- ・学校行事、学習活動、環境整備等の取組と参加協力
- ・地域人材を活用した体験的学習について
- ・地域教育協議会との連携について
- ・学校規模適正化・教育協議会等
- ・連携事業や地域の人材の活用
- ・ボランティアや、地域の方々や施設などとの連携のあり方について

「学校園に対する評価に関すること」

〔幼:95% 小:78% 中高:65% 全体:81%〕

- ・学校評価の依頼
- ・アンケート結果について
- ・次年度についての意見
- ・アンケートの項目や報告について

「園児、児童生徒の安全に関すること」

〔幼:79% 小:89% 中高:78% 全体:83%〕

- ・校内、登下校、緊急時の児童の安全確保
- ・避難訓練、防犯ブザー携帯率等
- ・危機管理について、いじめについて
- ・不審者侵入対策のための設備について(防犯カメラ設置)

「学校の目標としていることに関すること」

〔幼:76% 小:82% 中高:70% 全体:77%〕

- ・目指す子ども像について
- ・学校評価に基づいて学教育活動を行っているかについて
- ・学校目標が適切か、また目標にぶれがないか等について
- ・研究主題や目指す幼児像について

以下、「教育課程・教育内容に関すること」（全体 65%）、「学校施設・設備に関すること」「生徒指導に関すること」（全体:56%）と続いています。

【学校評議員からの意見を教職員全体で共有する仕組み】

教職員全体で共有する仕組み	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度
共有し、対応するシステムがあり、全体及び担当分掌で対応することができている。	54%	56%	60%	62%
共有し、対応するシステムがあるが、十分機能していないといえない。あるいは共有できていない。	46%	44%	40%	38%

【学校評議員の方々からのご意見が教育活動に活かされた例】

- ・ 地域の名人さんに働きかけボランティア活動として取り組んでもらった。
- ・ 地域の方との“ふれあい会”の行事や、地域の伝統行事を園で行うにあたり、準備や子どもたちへの助言・よりよい手順など、アドバイスをいただいた。
- ・ 園外保育や他園との交流の際に、付き添いをしていただいた。安全面とともに交流の様子も見ていただけた。
- ・ 通学合宿の次年度からの体制作りにいかすことができた。
- ・ 地域の方々の見守りを意識させ、挨拶運動につなげた。
- ・ 学校支援について校区への呼びかけなど協力体制についてのアドバイスをいただいた
- ・ 夏期休業中、地域の方々にもお手伝いいただいて、廊下壁のペンキ塗りを行った。
- ・ 地域ぐるみの子育て体制の構築に向け、ホームページやオープンスクールの充実を図り、地域の学校に対する理解が進んだ。
- ・ 緊急対応マニュアルの修正と自治会・消防団等関係機関と再度緊急時の各部署の対応を協議し、正確に素早く動ける体制づくりについて確認した。
- ・ 図書室の補助支援、環境整備の支援、学習の支援
- ・ 地域教育協議会や自治連合会の協力を得て、学識経験者による講演会を円滑に行うことができた。
- ・ 学校評価の一環である生徒アンケートの内容に、学校評議員からの提言を活かすことができた。

各学校園で行われた学校評価をいかに年度末総括に反映させ、次年度の学校園づくりにつなげるかが、さらなる教育改善につながります。P D C AサイクルのAは学校園を変えるためのアクションです。それは全教職員が評価を共有することから始まります。

また多くの協力を得て出した評価を、子どもたちや地域の方々と共有することも、アクションを起こすために必要です。学校便りや学校ホームページなどでの公開も、非常に有効な方法となります。

2、学校評価の実施

【学校評価を進める仕組みの有無】

学校評価を進める仕組み	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度
学校評価を進める 校内委員会等を組織している。	74%	75%	79%	88%
全教職員参加のもとで 学校評価を進めている。	90%	89%	94%	93%

平成24年度内訳(校内委員会等の組織している。／全教職員が参加している。)

幼：71%／95% 小：96%／96% 中高：100%／87%]

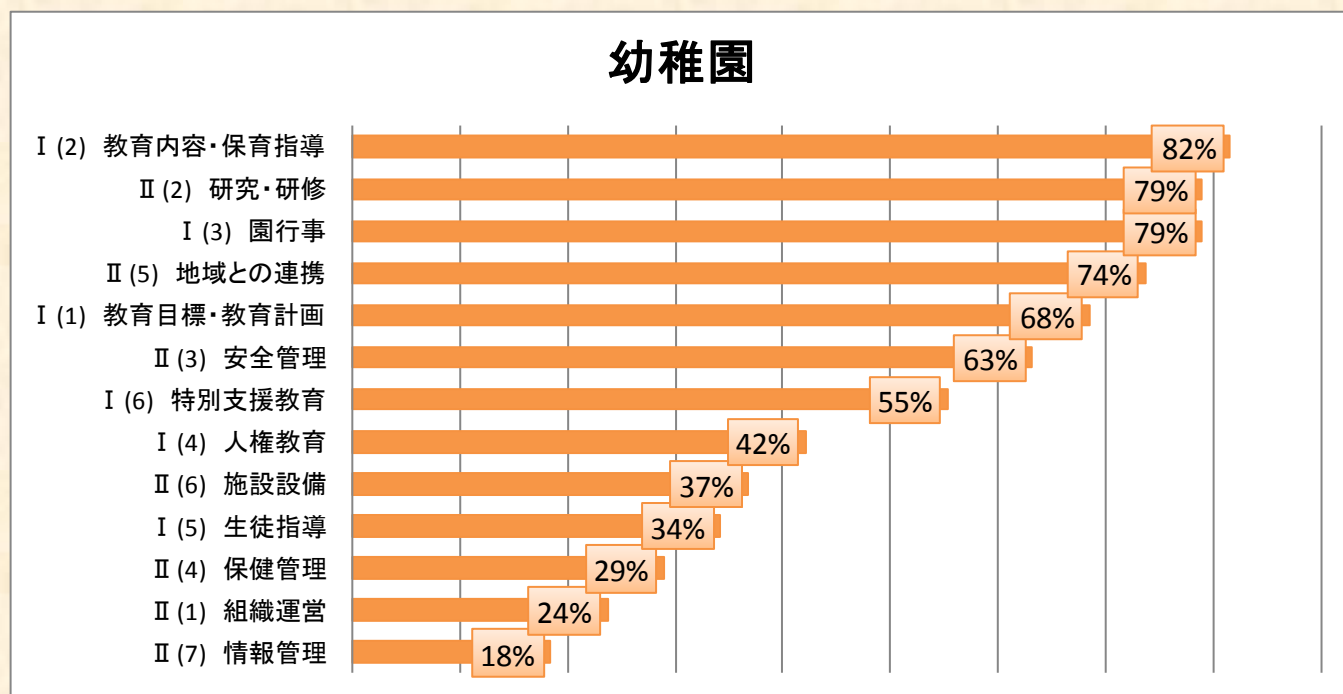
【評価結果に基づく改善方策の検討を行う体制】

学校評価を進める仕組み	幼稚園	小学校	中高学校	全体
全教職員参加の体制で行っている。	100%	91%	74%	91%
学校評価関係教職員で行っている。	0%	9%	17%	8%
主に担当者が行っている。	0%	0%	9%	2%

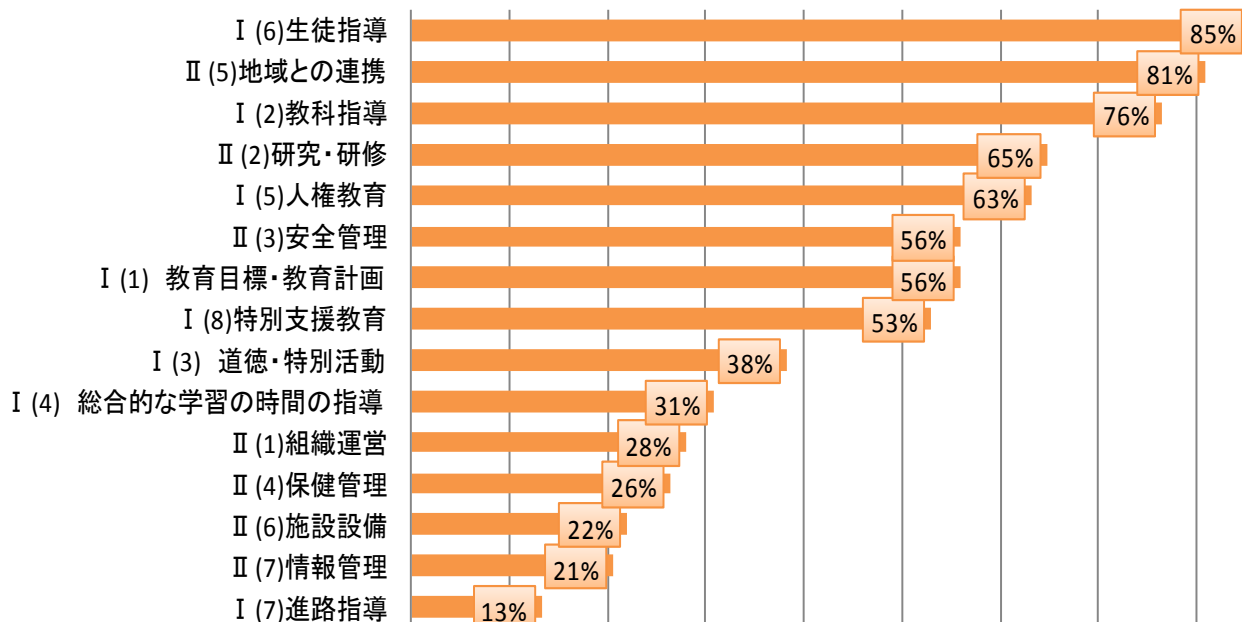
【外部アンケート（児童生徒・保護者等を対象としたアンケート）の実施割合】

	幼稚園	小学校	中学校	全体
年度末に1回実施	47%	29%	35%	37%
年度末以外に1回実施	34%	67%	65%	55%
年2回（1学期末、2学期末）	11%	2%	0%	5%
その他（行事ごと等）	8%	2%	0%	4%

【各学校園が設定した重点的な目標（評価項目）】



小学校・中学校・小中学校・高等学校



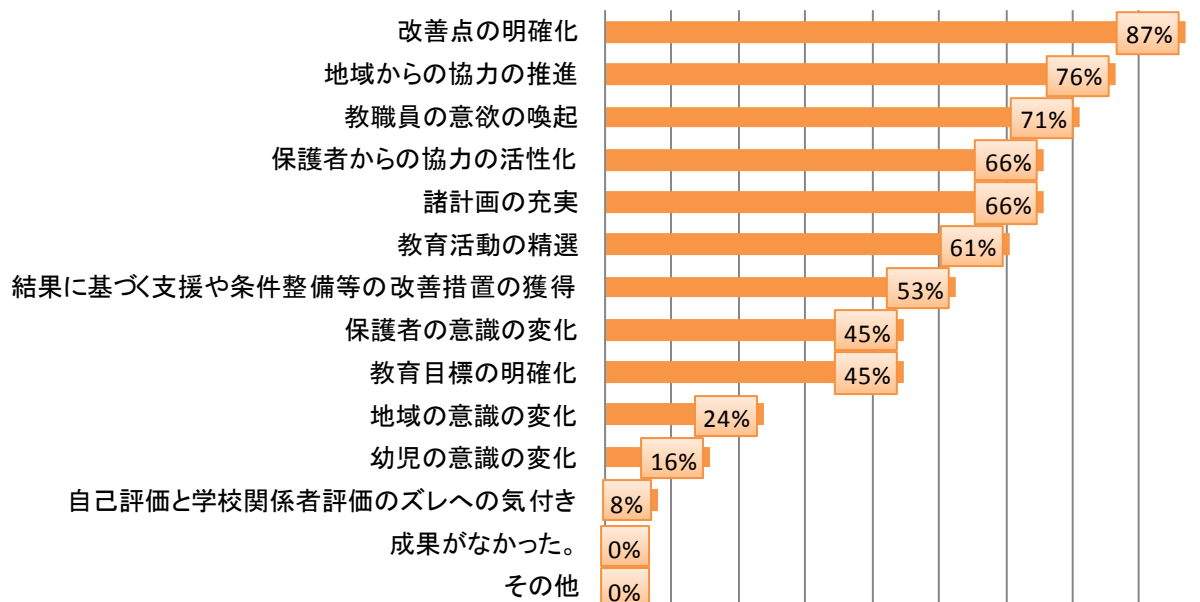
【学校関係者評価の実施について】

	幼稚園	小学校	中学校	全体
評価者に学校の自己評価の結果と課題に対する改善策を示している。	6 8 %	7 1 %	4 8 %	6 5 %
学校の教育活動の取組を評価者に説明するとともに、普段の教育活動や学校行事を参観する機会を設けている。	8 7 %	8 4 %	6 5 %	8 1 %
評価はアンケート形式で回答を求めている。	6 1 %	6 2 %	5 7 %	6 0 %
評価者の意見を聞く場を設定し、学校の教職員と直接、意見交換している。	2 4 %	1 3 %	1 7 %	1 8 %

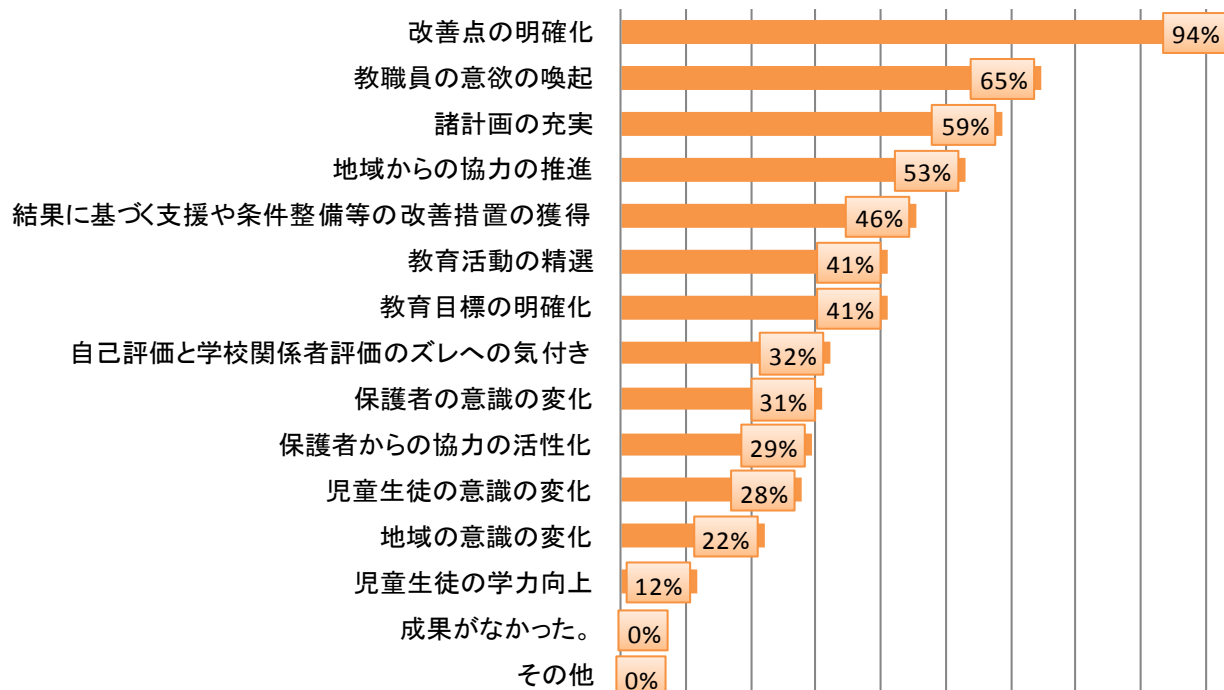
3、学校評価の成果と課題

【学校評価を行ったことで得られた成果】

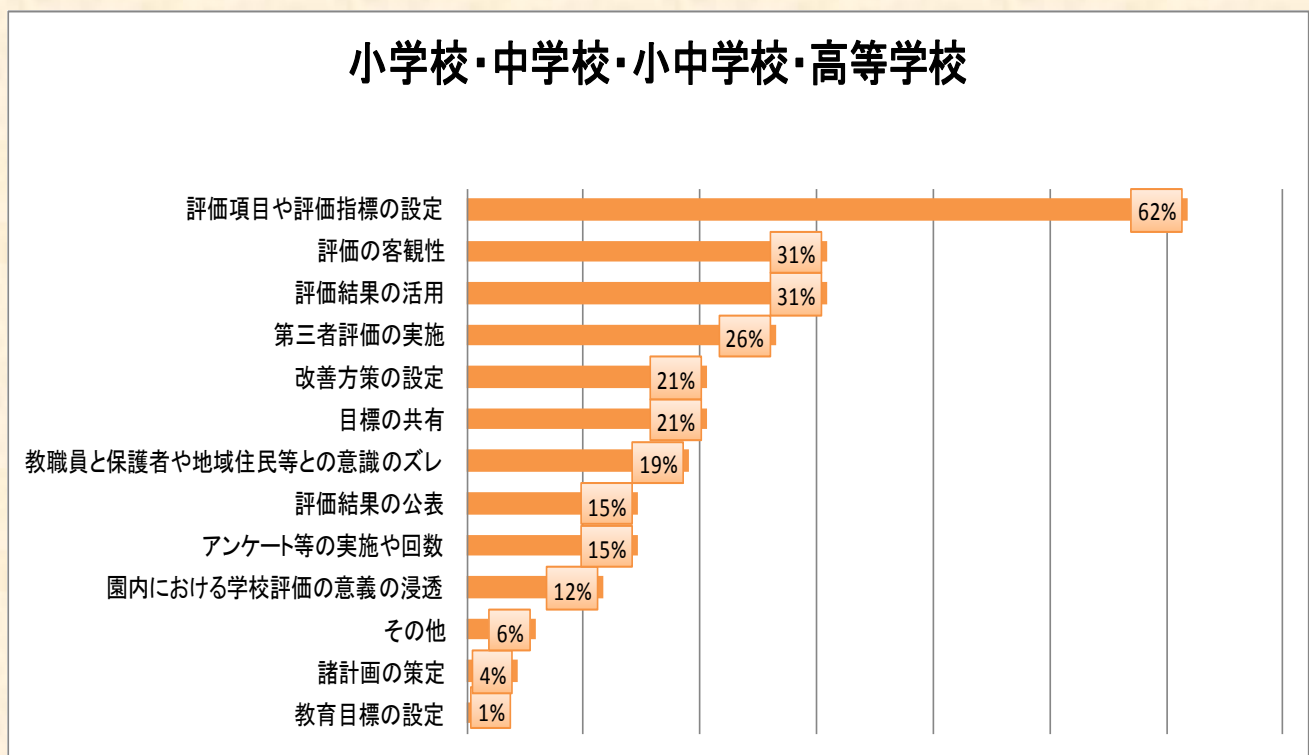
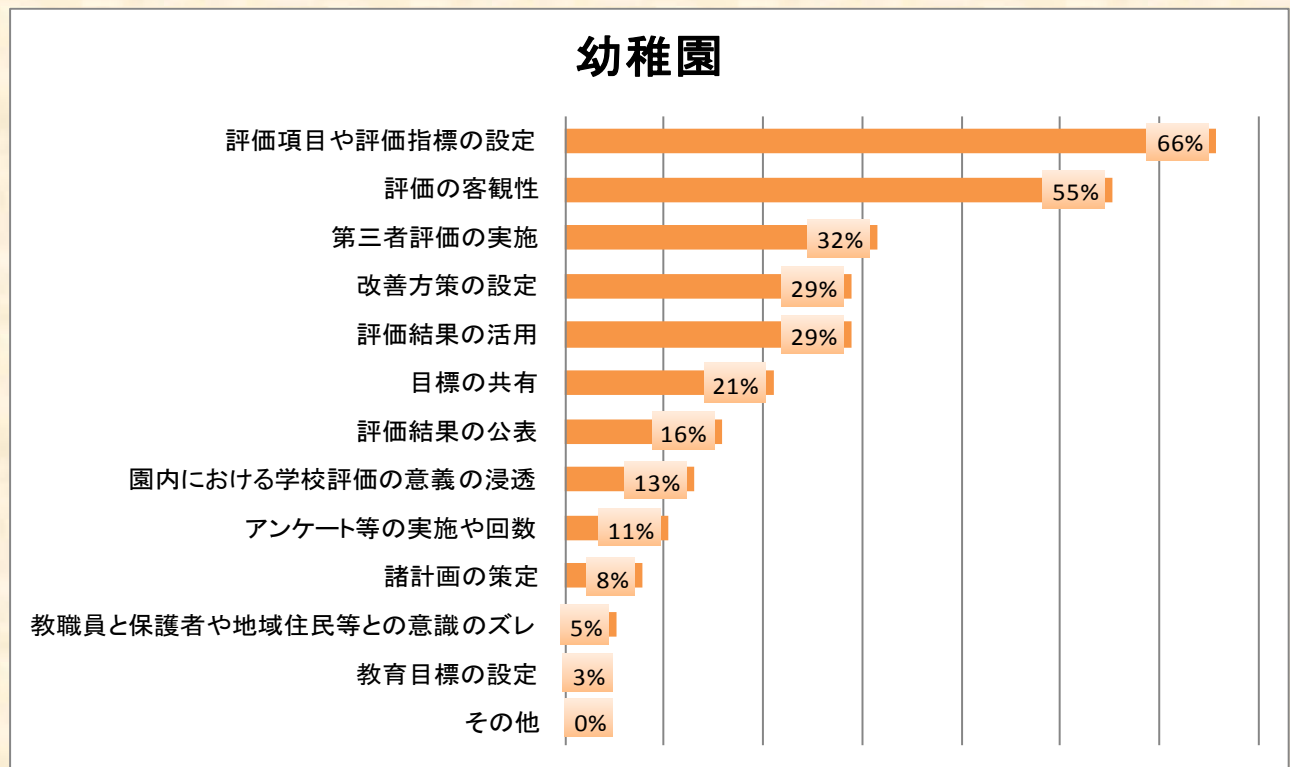
幼稚園



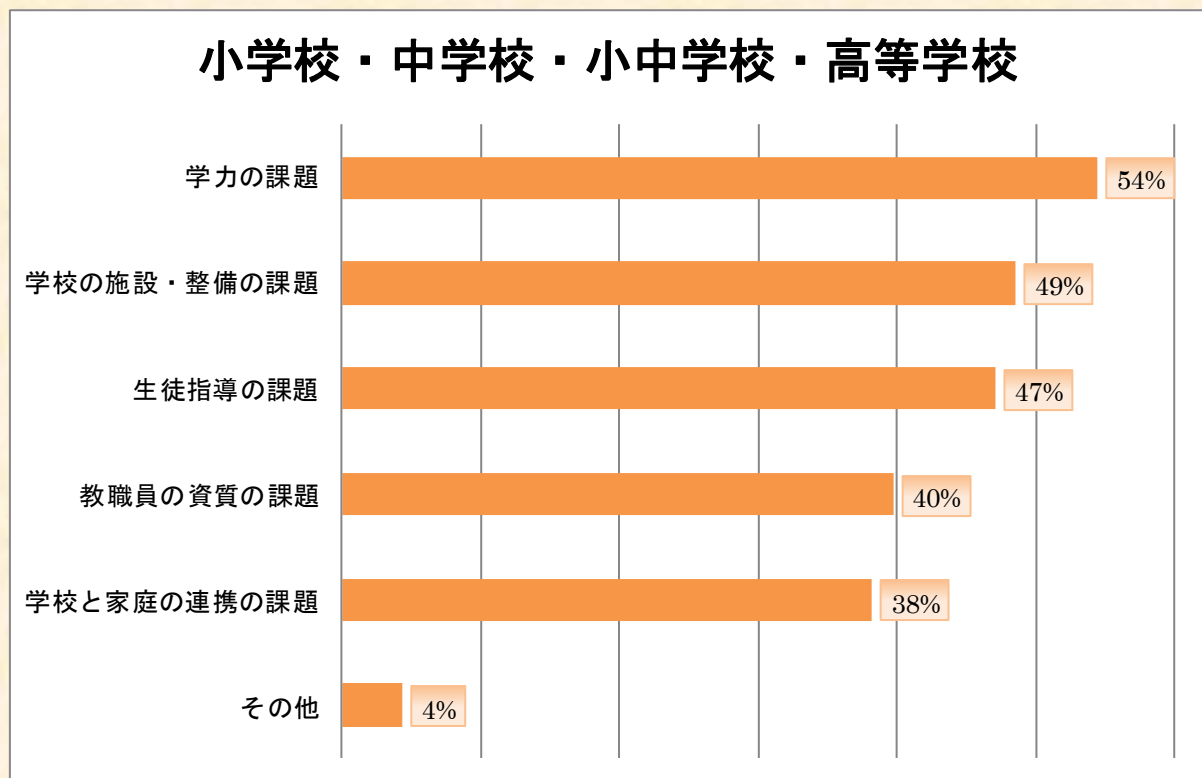
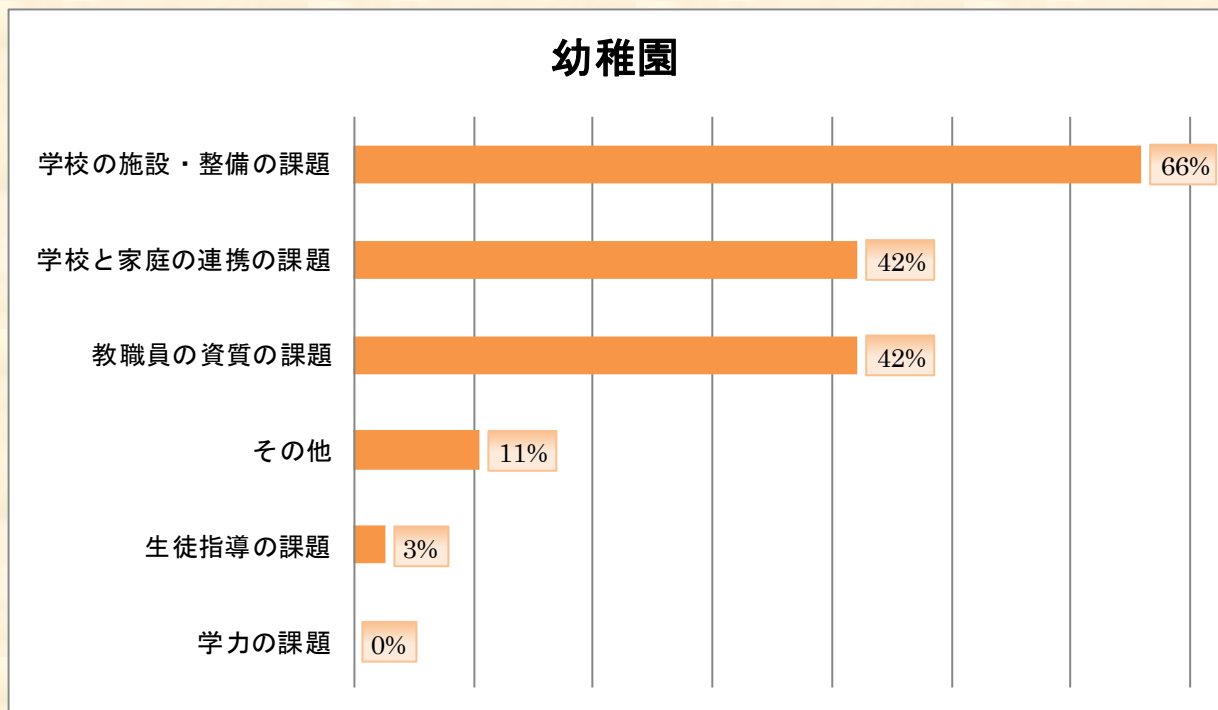
小学校・中学校・小中学校・高等学校



【学校評価をすすめる上での課題】



【学校評価結果から指摘できる、学校が抱かえる学校経営上の課題】



【学校評価結果から指摘できる、学校が抱かえる学校経営上の課題の具体的解決策の例】

〔学校と家庭の連携に関すること〕

- ・ 短時間保育利用、長時間保育利用の保護者が参加できるように、園行事の見直しを図る。
- ・ 親子活動を増やし、園の様子を伝える取組を強化する。
- ・ 家庭との連絡を密にし、園での様子を保護者に伝え、理解を得るようにする。また、園の教育目標や取り組みをさらに理解してもらえるようビジョンを配布するなどして、伝えていく。
- ・ 機会をとらえて教育方針などを話し合い、互いの思い受け止めあう中で信頼関係を築き、一緒に子育てをする体制を整える。

〔学力に関すること〕

- ・ 少人数指導、個別指導の充実
- ・ 分かりやすい授業法の工夫と授業研究の推進。
- ・ 家庭支援の必要性和保護者の理解・協力を得るべく情報発信と啓発をする。
- ・ 課題を明確化し、その課題を克服するための学習内容や支援体制を整えていく。
- ・ 発問の工夫など、スキルを高める研修など、研修の工夫を図る。
- ・ 学力向上の課題を研修主題にし、科学的な分析を行える体制を創る。
- ・ 学力テストなど分析し、児童の実態を把握し、適切な指導を行う。
- ・ 考えを話す聞く活動を増やし、学び合う授業作りを進めていく。
- ・ カリキュラムを充実させ、進路に向けて生徒に目的意識を持たせるような指導を行う。

〔生徒指導に関すること〕

- ・ 持続発展学習を教育課程の中にしっかりと位置づけるけじめのある、学校生活の取り組み。
- ・ 規範意識の向上を図るため、生徒指導推進委員会や各児童会活動とも連携し、あいさつ・掃除・廊下歩行の指導強化に努める。
- ・ いじめ問題や友達とのトラブルに対する保護者の心配に対し、学校や学級の様子を知らせるため学校だより・学級だより・電話連絡・懇談等の充実に取り組む。
- ・ 全職員が「いじめ」はどこでも起こりうることでありという認識を持ち、常に児童を中心とした保護者との連携をとれる体制を強化する。

〔施設・整備に関すること〕

- ・ 定期的に点検等を行い、必要な場合行政へ要望する。
- ・ 可能な部分については職員作業で修理・改装を行いながら、施設の老朽化が目立ち、特に安全上好ましくない部分から市に要望を出す。

4、学校評価と学校ビジョン

【学校評価結果をうけて、改善しようとしている学校ビジョンの内容】

- ・本年度の教育ビジョンにおいて、具体的な努力目標を掲げたことにより子どもや保護者等意識が深まった。次年度も具体的で分かりやすいビジョンを提示していきたい。
 - ・イラストやカット、写真等を挿入し、保護者や地域の方も見やすく、構成し直す。
 - ・「〇〇教育の推進」等の言葉でなく、誰にでもわかりやすい具体的な言葉での表記をする。
-
- ・コミュニティースクールに向け、今ある組織の見直しを行い、地域との一層の連携に努める。
 - ・校内会議・研修の機会を多くもつことや、必要によっては講師を招く。
 - ・全教科で言語活動を重視した取組を充実させる。
 - ・「視写」学習は、全校生徒が一斉に取り組む機会でもあり、より効果的に実施する。
 - ・児童減少を前向きにとらえ、地域と連携した教育活動を活発に行う。
 - ・学期に1回、年間3回は互いに授業を見せ合う授業研究を進める。
 - ・ホームページに、写真の掲示やたより等具体的な発信内容と月に〇回等、数値目標を入れる。
 - ・学校生活の約束や学習規律への統一など、規範意識の向上に向けた取組に重点化する。
 - ・運営・評価委員会の定例化と検討内容の見直しをする。
 - ・保幼小連携では、つながりを大切にするために取組を進め、共同で作品を借りて、鑑賞しあうなどしていきたい。
 - ・「必要な学校行事を精選」し、行事の度に子どもたちが達成感や充実感を味わい、高まっていく取組(指導)を追求する。
 - ・教育相談体制といじめ事象への対応マニュアルの検討と職員研修を実施する。
 - ・昨年度から挨拶の大切さを訴え、児童会でも取り組み、挨拶の声も大きくなり、児童のアンケート結果からも、挨拶を励行しているという数字があがってきている。来年度も引き続き挨拶の大切さを訴えていきたい。
 - ・次年度の学校行事開催時期の検討と土曜参観の内容について検討する
 - ・幼小中連携の具体的な内容をつくる。
 - ・学力・学習状況調査から見えてきた課題の現状分析を行い、来年度実践事項を提案する。
 - ・特別支援教育の支援を要する園児が増えることから、支援体制の構築をする。
 - ・園のアピール(1月からモデル園としての預かり保育)、広報活動を積極的にしていく。
 - ・行事の見直しと精選をする。
 - ・奈良のよさや校区のよさに触れたり学んだりする機会を、教育課程に位置づけ取り組む。